



# 教育シンポジウム「どうなってるの？ 今どきの学校」に参加して

小 東 由 男

3月15日、新潟県内で勤務している教職員から、勤務実態や「仕事のやりがい」について聴く機会を得ました。「小中学校、高校、大学の教員から、今問題となっていること、子ども・若者たちの様子、改革のために必要なこと、などを語る」をテーマとした集いです。その集会で話題になった内容について紹介します。

## 1 自己紹介を兼ねて(パネラーの5名が發言)

○小、男性、(一日の子どもの日課内容説明)昼休みは、休めない。3時半お帰り。木曜日一番忙しい、1、2時間の空きがあるが、他の先生の出張など、替わりに入ることも。きつきの状態でやっている。ペアーの先生と打ち合わせをする時間がなかなか取れず、全校

朝会時、給食を早く食べて、時間を見つけることも。自分の子どももの面倒を覗かなければならないし、職業として魅力あり、成長の姿をうかがうことのできる場にいられてうれしい。知れた時うれしい、一方、労働環境は大変と考える。

◎子どもとの対応のため忙しくて、教務室に戻ることもない状態のようすがうかがえる。(司会)

○中、女性、

・生徒実態、一生懸命やっている、課題がある。①コロナ禍の間に育ってきている生徒で、小4から中1マスクを着け、三密さけ、給食は前を向いて。人との関わりが制約されていて、人との関わり方や距離感が育っていない。毎日長時間SNSで友達と話す生活が続く。

不登校が多くなってきた。主に、自分の問題に起因しているのかな、理由もなく涙が出るのだ、登校するのが憂鬱、学校にいけないとなる。

・学校としての課題

①生徒によってニーズが異なり、放課後、他の生徒が帰ってからじゃないと、学校にいけない子もいる。寄り添いたいが対応できていない。②子どもたちが繊細になっていて、強く言うといけないと考えての対応、また親もわが子に気を使っていると感じる。教員は弱い立場、あなたの指導が悪いからいけないんじゃないか、と言われるんじゃないか。

仕事のやりがいを感じている。

◎子どもの変化、保護者との対応について話してもらいました(司会)

○私学高校、女性、公民・地歴担当、教員歴16年目

教員不足を感じている、かつかつの状態をやっている。担任、副担任制だが、体調不良などで休むと、普段14から16コマの授業を担当しているのだが、1から3時間ほど空きがあるが、日によっては教務室で仕事をすることが無かった。また、昼食を4時ごろ食べるようになったり、食べ損ねたりすることもあるよう

だ。私学だから、経営を考えると人件費の問題で。

今は、2年生の担任、コロナ禍を原因として、先に話した方と同じで、距離感、人との関わりが課題になっている。不登校気味で教室にいたくない生徒にはカウンセラーと、保健室で相談している。連携は取りやすい環境です。

通信制に行く子が出てきている。

やりがいは、大変但也有ります。1年生はまとまりがなく、2年生になれば落ち着いてきて成長している姿を発見できるとうれしくなる。

私学も生徒が減っていて、学校としての生き残りをかけている状況。定員割れで、補助金が減らされるなどが生まれている。

○特別支援、女性、新採用、大規模な支援学校。パーソナルスペースが少ない。音楽教室がいの特別教室を、普通教室にしている。

勤務は、8時半から始まる、休みの先生の替わりとして、教室に入る。介護支援で1時間、30分の手伝いで入ることもある。当日の朝にならないと、何をするのか分からない。

児童生徒は、替わりに入る先生をためすことがある。

すごく遠いところまで散歩に出かける。新採用だからこそ、いろんな先生、児童生徒たちと関わる事が出来ている。勉強になる。

何度も名前を尋ねる。名前を読んで、〇〇の本がとも面白かったと声をかけてくれるようになった。また、担任から、指導生徒があなたのことを話していたよと聞かされたりして、うれしかった。

○大学・男性、大学の教員も不足している。1991年140人が、今では70人。学生は494人から、180人に。

教員のなり手が少なくなっていて、試験の科目数を減らしたり、教員になるための取得単位を減らしたりする対応をとっている。ハードルを下げることの危惧はある。学生が、教員の仕事に魅力を感じなくなっている。医師と比較すると、「医師不足」と言われても、ハードルを下げていない。

市の教育委員から教員を増やしてほしいとの願いを大学理事に提出することがあった。180人の学生。6割から、75%と、教員になると言っている割合が増えているが、大学の教員が不足していることで、学生に提供するカリキュラムが少なくなる。昔は、必修の

単位については正規の教員が担任していたが、近ごろは、非常勤の教員が担任するようになった。学生専任教員とも減っている。

4年前の学生、1年生からオンライン授業で3学年まで週1、2回体育の授業をする事で学内に入る。あとは、自宅やアパートからのオンライン授業。対面での授業は人と人との関係があり、楽しみもあって、ゼミの最中や終わってからの会話や交流があったが、コロナ禍の期間中、これらの経験が無くなった。これらは、知識を身に付けること以外にも人と人との接し方や過ごし方など、知識以外のノウハウを奪う結果となった。

それらを含めて、教育の質はどうなるのか。教職をめざして、教育学部以外の他学部生を含めて200人が、「教育概論」の科目を受講している。私は、それを担当している。8割の人たちが教員になりたいと希望している。1年生が学校現場に行く。

## 2 フロアーからの質問

△退勤は何時になるのか(年配の男性から、近所の学校の電灯がいつまでもついていて心配なもので、質問したとのこと。)

・校種や学校によって様々な実態が回答された5・30日によって変わる。7時過ぎになることも。

◎早く帰る人も、「風呂敷残業」と言われる家に帰っての残業がある。(司会)

△「教員不足」が起きている事態の中でも教員を増やさないのは、今後も引き続き子どもの数が減っていることを見越しての事なのか。(50代の男性)

・文科省が教員増を希望しても、財務省が教員配置の計算式を変えない。

△子どもの暴力は、新潟市、新潟県が多い。それぞれの学校の実態は(市会議員の男性)

・言葉で表現できなくて、暴力につながっている。たとえば、スマホを持ち込んだ子の学友がそれを見つけて、「スマホ持ち込んで」と取り挙げたところ、「なにするんだ」と、暴力行為に及んでしまう。

△タブレットの活用状況は(市会議員の男性)

・政令都市の中では、新潟市が日本一の利用実績で、市のHPに載せられている。

・発表や調べる学習で、上手に使用している。

・デメリットとしては、人の眼を見て話さない、画面越しに聞く。聞かない。

・(視聴してはいけないのか)YouTubeを視聴してしまう。  
・書く経験が少なくなつてか、漢字が書けなくなつている。

・(高校のパネラーから)小・中での訓練があり、活用できている。ただ、話を聞いて欲しい場面で画面を見続けてしまうことがあった。

・(特別支援学校のパネラーから)昼食前、教員が家庭の人に本日のお子さんの様子を報告する文章を連絡帳に書いている間に、タブレットをつけてYouTubeを視聴させている。

△「新日本婦人の会」の不登校児童生徒をお子さんに持つ保護者アンケートの声に、「欠席している間に授業がどんどん進んでいて、出席した時とてもついていけない状態だった」とあった。(年配の女性)

・低学年より高学年の方が、復帰しにくい。登校へのエネルギーが少なくなっている。

△スピードについていけないのは、指導要領の内容が増えたからではないか(年配の女性)

教えることの環境が変わったのではないか。当たり前子どもは反応している。

△授業が面白いと思えるような準備が出来ているのか

(教員経験者の男性)

・私が勤務する学校、高校には、学習を苦手としている子が多い。意欲的に学ぶ学習の構築が課題となっている。「ICTの活用を」と管理職は言っている。指導の準備はなされていないことが多い。

・中学校でもカリキュラムで教える中身が多くなっている。部活、塾通い、キャリアパスポート、昼休みには委員会活動があるなど、生徒は忙しい状態だ。分からないことを友達に聞くことが出来ない。教科に好き嫌いがある。先生との相性もある。勤務時間中に準備をする時間はごく少ない日、無い。勤務時間に準備できない。土・日に考える。博物館に行つて見識を深めるなど。

・小学校の家庭科で、寒い時の服装4時間、住まい4時間、団らん2時間が配当されていて、学習している。これらを教えるため1日6時間の日になる。教える内容が多すぎると感じている。生活に関わるような、リアルな、社会科や総合的な学習の時間などは意欲的。例えば訪問を伴う学習については、充実している。国語などは、じっくり準備している。後は経験したことを思い出して授業に臨む。歩きながら教材研究をする

こともある。

◎カリキュラムが多すぎると気付いてきている。(司会  
△先生同士の学び合いは(年配の女性)

・小学校、新採用の方は、授業準備が大変そうだ。ワークシートをもらう、日々の授業に対する「小ネタ」ももらっている。学級経営に関する学ぶ環境は無いと思う。  
・中学校、学習指導に関する研修会をやっている。学級経営などは自分から学びにいかないといけない。

高校、教務部からお互いに「授業を見合う」ようにと呼びかけられている。研修で時間がとられ、雑談からの指導技術などのシエヤが役立っている。新採用の時、校外での研修のため学校を空けなければならなかった。

・特別支援校、私自身が「引き出し」が少ないので、先輩の方の授業を観て学んでいる。

### 3 意見

・家庭科で学習している内容などは、家庭で教える。育っていく過程で。(女性)

・すごい格好で登校している。小学校の場合は、こんなことまで、先生にお願いするなんて。(女性)

・親は、子どものありようを観ていない。朝ご飯を食べていない、そのため貧血になることもある。

・教員の働き方改革と叫ばれているが、あらゆる職種で人手不足が起きている。働き方改革も考えて。給与では本給が上がったとしても、他の手当が削減されていて、総額はほとんど同じ。あと50年は改善されないのか。危機的な状態。チラシ説明、署名活動に賛同を。  
(現職の高校の男性から)

・教育実習に来る方を拝見していると「絶対になりたい」「まよっている」「ちよちよらにしている」など、様々です。教職員は人との関わりを通して、その子の成長を手伝ってあげられる。(実習を受け入れている学校の教員、女性)

・教育の仕事は、エンドレス。出勤時刻、退勤時刻が定められているが、実際はそのようにはならない。男女共働きで、男性が家事で働く姿を「偉いね」と表現する。それでは、女性が家事をしている姿を「偉いね」と表現しているか。(障害児教育経験の年配男性)

・家庭では、いろいろな状態がある。多様性がある。なのに一律の学習で、統一されている。これは、怖いことだ。いまの教育の現場は、変だ。一年目で、4月

から担任となり、生徒の前に立つ。民間企業では、研修の期間がしっかりある。また、新潟県立高校の再編計画がある。有識者が会議を開き、その答申が出されている。1クラスの生徒数を40人以下に減らす声について、有識者の中では出ていないのかと尋ねると、なかったと回答が。有識者とは何なのかと、疑問に思う。  
(現職高校教員、男性)

・多様性を無くす授業から、自主編成で価値ある授業にしていこう。総合学習で、海へ山へと出かけようと計画した経験がある。指導内容の作り替えを。(高校教員経験者、男性)

・現職の教員の方と話す機会は少ない。指導要領を作る人と、それを実際指導する現場とは意識の差がある。  
(大学生、男性)

・教員を経験して、変だなと思うことがある。臨時教員としてやっている職場では担任もしている、8〜9時までやつても終わらない。このような状態では、わが子を見てやるのが出来ない。職場では、けがを負いました。子どもの争いを仲裁した時、児童から頭突きをくらひ、歯を骨折したことがある。また、子どもの介助をして、ねんざと思っていたが、実際骨折して

いたことも。労災申請をする書類記入は、めちゃくちゃ多い。1年半かかった。臨時の身分で労災にすると、次の採用が無くなるのではと思いいもあつた。(講師経験のある女性)

#### 4 パネラーの感想

・ 労災申請を私もした。敏感肌の子は、長袖長ズボンでは刺激があり半袖まくりになければならない。様々なお子さんがいることを分かつてほしい(女性パネラー)

・ すべての業種で忙しいし、親御さんも忙しい。その中でどうつながっていくのか。三者が大変困っている状況(女性)

・ 学習指導要領は、きちつと決められているが。仕事のマニュアルなど決まっていない。どのように指導するかなども。自分の生活とバランスを取りながら子どもの為に仕事をするかが大切だと分かった。

・ 学生の頃読んだ専門書に教員の専門性は「国の政策から子どもを守ることだ」と記述されていたことを思い出した。道徳つまらないね、などと話している。教材を変えてこの思いの人はかなりいる。

・ 学生を連れてくればよかったなと思つた。本当に教

師になりたいと思う気持ちを作るか、カリキュラムの話、小学校5年生で授業をした。「0」が入った分数、「0分の0」はなぜだめなのか、の授業90分間食いついてきてくれた。分数の割り算、どうしてひっくり返して掛けるのかの時も食いついてきた。コロナ禍の中で半日登校もあつた。子どもの知的関心に教材を作っていくのか、民間も研究している。子どもに楽しい思いを体感できる授業実践と、それに向かう研究が必要です。

会場いっぱい参加者がありました。小中高校、特別支援学校、大学の教員・学生やOB、特別教育支援員、市民、市議員など、多種多様な方々でした。

教職員の多忙化の実態やその背景について考える大変有意義なシンポジウムでした。当日、パネラーとして発言された方々、準備・運営に当たられた協力の皆様、参加された皆様に感謝いたします。

(こひがしよしお 所員)